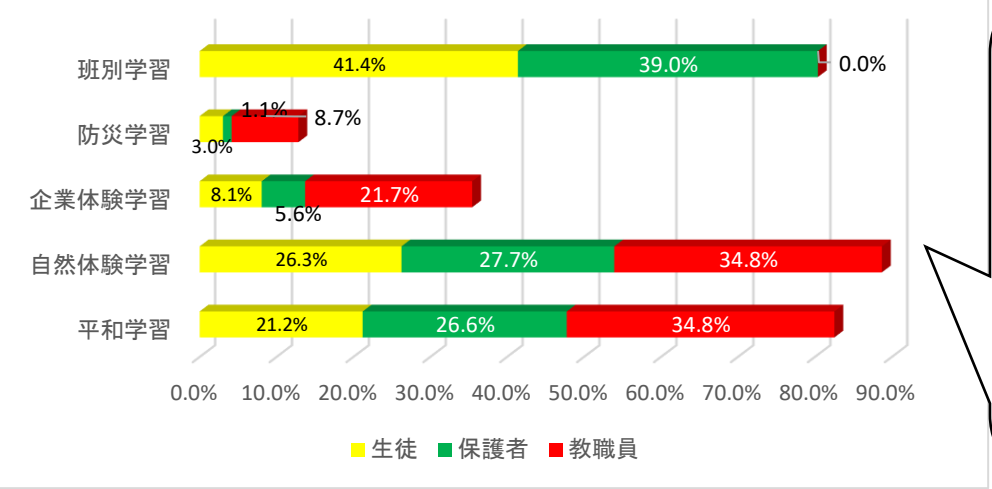


修学旅行希望状況調査

- ・調査内容: 令和10年度修学旅行について
- ・調査対象: 生徒、保護者、教職員
- ・調査機関: 令和8年7月17日～31日
- ・調査方法: 二次元コードからのオンライン回答
- ・回答数: 生徒103人(27%)

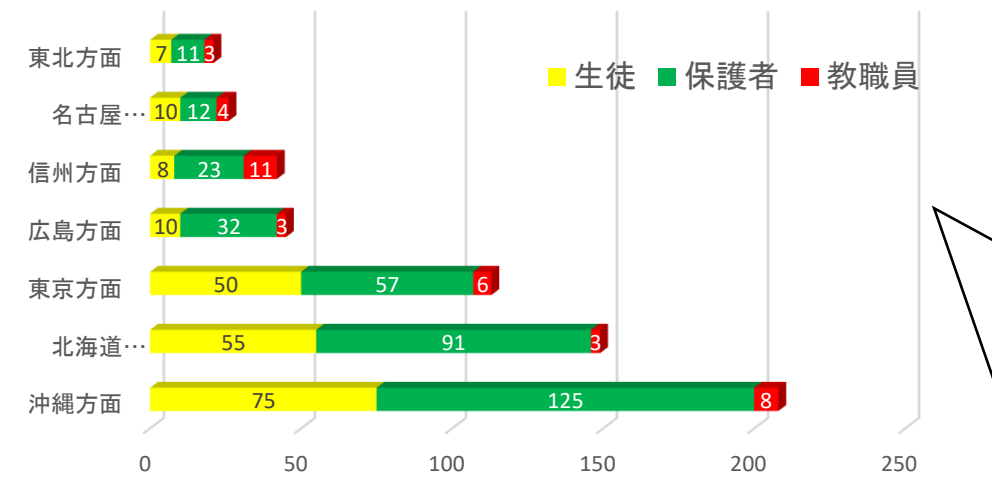
のぞましい修学旅行の目的(割合)



目的

- ・生徒の半数が少人数の班別学習を希望しているが、教師は安全や指導が容易ではなく、準備の負担感も好ましくないと考える要因と考えられる。
- ・一方、保護者や教職員は自然体験や平和学習にも関心がある。
- ・防災や企業体験については関心が低い傾向が見られる。
- ・目的意識が一致していない。

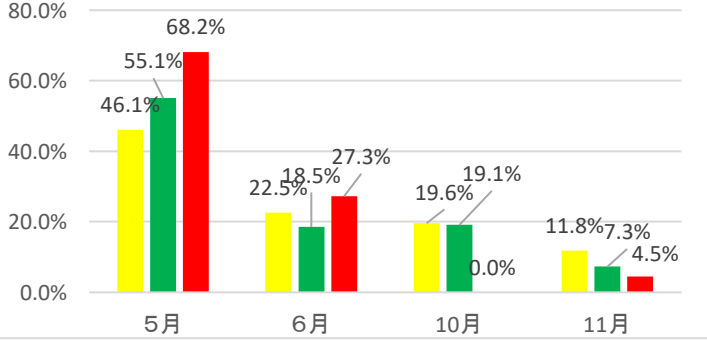
目的を達成できる方面【調査対象別】人数



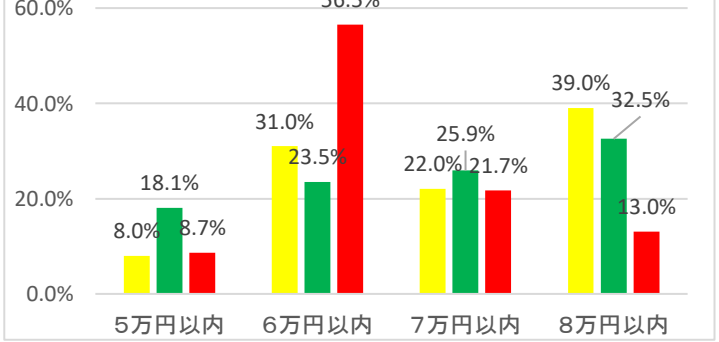
方面

- ・沖縄方面が圧倒的に多く支持されており、生徒も保護者の意見も同等である。一方、教職員は沖縄の不安材料として、天候、費用、昨今の事故の影響を懸念していることが伺える。
- ・東京や北海道方面の希望も少なくない。変更するならこの方面が考えられる。
- ・教職員は信州での自然体験学習が望ましいと考えている。

実施時期(割合)



費用(割合)



実施時期については、ほぼ5月の希望が多く見られた。費用については生徒・保護者が8万円以下、教師が6万円以下と格差があった。

生徒の修学旅行への思いや考え

- ・目的（楽しさと学び）：友人との思い出作りを楽しむだけでなく、平和学習や文化体験など「メリハリのある学び」との両立を求める声が多い。
- ・行き先・移動：ディズニー、沖縄、北海道などが人気。一方で、飛行機で遠出したい派と、移動を抑えて現地で長く遊びたい（バス移動希望など）派で意見が分かれている。
- ・宿泊環境：綺麗なホテルや少人数部屋が好まれる一方、「民泊」には否定的な意見が目立つ。
- ・ルール・班行動：スマホの条件付き解禁や自由行動の確保を望む声がある。班決めは「仲良しグループ」希望と「公平・学年の絆を深める配慮」を求める声の両方がある。

保護者の修学旅行への思いや考え

- ・目的と内容（思い出と学びの両立）：平和学習や自然体験・観光を適度に取り入れつつ、詰め込みすぎないゆとりのある日程で、仲間との楽しい思い出作りを最優先にしてほしい。
- ・宿泊形態（民泊への強い懸念）：事故・トラブル時の安全面や家庭ごとの格差を理由に、民泊を避け、教員の目が届くホテルや旅館への宿泊を望む声が多数。
- ・行先と時期：沖縄は飛行機や文化面で高評価な一方、台風等のリスクから新幹線で行ける長崎・広島等を推す声もある。天候やテスト期間を考慮した時期設定を要望。
- ・安全と配慮：安全第一の対策（マリンスポーツ等のリスク考慮）を最優先とし、スマホ持参許可や公平な班決め、費用の妥当性を求める意見が見られる。

教職員の修学旅行への思いや考え

- ・目的と学習内容
単なる観光（物見遊山）やレジャーではなく、歴史・平和・産業・自然などの目的を持った探究的な学びの機会とする。
Gammaや資料館がある沖縄・長崎など、現地だからこそ学べる平和学習の価値を重視する。
- ・体験のあり方
普段できない非日常的な体験、自然に関わる体験、しっかり体を動かせる活動を取り入れる。
民泊体験は生徒の思い出になりやすいため継続を希望する声がある一方、教員の負担管理や安全面の観点から訪問型・体験型プログラムの組み合わせを提案する意見もある。
- ・安全面と時期
最優先事項として生徒の安全管理を徹底し、危険だからとすべて制限するのではなく安全な環境下で体験させる。
近年の猛暑を踏まえ、夏の暑い時期を避けた日程調整を求める。
- ・学校体制と教員の負担
学年ごとの単年度判断ではなく、1・2年生からの連動性も含めた「学校全体の教育方針」として目的や行き先を明確化する。